

日サ協発第25050006号
2025年6月19日

関係各位

公益財団法人日本サッカー協会

国際サッカー評議会(以下、IFAB)から2025年3月26日付回状第30号をもって2025/26年サッカー競技規則の改正を含む、第139回IFAB年次総会における決定について通達されました。

通達自体の日本語訳(概略)は、下記のとおりです。今回の改正により、ゴールキーパーが手や腕で8秒を超えてボールをコントロールした場合、反則となり、その反則があった場所に近いサイドからのコーナーキックが相手チームに与えられます。その8秒を主審がカウントするとき、目で見て分かるように主審は片方の腕を上げて最後の5秒をカウントダウンすることになります。競技規則の変更は、通常2年の試行を経て導入を検討されるのですが、今回は、試行で明らかに良い分析結果が得られたことから1年での導入が決定されました(詳細は添付4:背景とQ&Aを参照)。また、これまで試行となっていた「キャプテンオンリー」が各競技会の判断によりガイドラインに従って実施できることが、競技規則第3条「競技者」に記載されました(添付3:キャプテンオンリーガイドラインを参照)。キャプテンが敬意をもって行動し、適切に振る舞うことを条件に、主審は基本的にキャプテンに対して重要な判定を説明することができるようになります。これにより、競技者と審判員の協力関係、そして信頼関係がさらに高まり、サッカーという競技のイメージが守られることが期待されます。さらに、ドロップボールによるプレーの再開方法も変更になります。これまでは、最後にボールに触れた競技者のチームにボールはドロップされていましたが、今回の改正によりボールを保持したであろうチームが主審にとって明らかな場合、そのチームの競技者にボールがドロップされることになります。また、ボールがドロップされる場所も、これまでの競技者が最後にボールに触れた場所から、主審がプレーを停止したときにボールがあった位置へと変更されます。

サッカー競技にかかわる関係者、特に競技者、監督/コーチそして審判員の皆さまには、これまでどおり、これらの改正を十分に理解した上で、プレー、指導、そしてレフェリングに携わっていただきたく、お願い申し上げます。

IFABからの回状に添付されている「2025/26年競技規則変更－概要と詳細」の日本語訳は添付1のとおりです。各協会、連盟等において、加盟クラブ、チーム、審判員等関係者に周知徹底を図られるよう、併せてお願い申し上げます。

これらの改正等は、国際的には2025年7月1日から有効となります。日本サッカー協会、各地域/都道府県サッカー協会等が主催する他の試合については、添付2のとおり適用されます。なお、今回の競技規則の主な改正についての説明用映像を本協会のホームページに6月下旬までに掲載する予定です。

記

第139回国際サッカー評議会年次総会の決定について

第139回IFAB年次総会が、アイルランドサッカー協会会長コンラッド・カークウッド氏の議事進行により、2025年3月1日北アイルランドのベルファストにおいて開催された。年次総会で採択された決定事項の概要は、以下の通りである。

2025/26年競技規則は2025年7月1日から有効になる。その日付以前に開始される競技会は、変更を競技規則変更の施行と翻訳の手助けとするため、添付の文書(2025/26年度規則変更および「キャプテンオンリー」のガイドライン)をご覧いただきたい。また、これらの文書は<https://www.theifab.com/documents>にも掲載している。

2025/26年競技規則は2025年7月1日から有効になる。その日付以前に開始される競技会は、変更を早める、または次シーズン開始時まで適用を遅らせることができる。

1. 2025/26年競技規則

いくつかの国で試行され、説得力ある結果が得られたことにより、ゴールキーパーによる時間の浪費を防止する目的で、第12条「ファウルおよび不正行為」の変更が承認された。これにより、ゴールキーパーはボールを8秒まで保持することが認められるが、それを超えると罰せられ、相手チームにコーナーキックが与えられる。ゴールキーパーがボールを放すまでの残り時間を認識できるよう、主審は手を上げて残り5秒をカウントダウンする(詳細については、<https://www.theifab.com/documents> から、「手や腕でゴールキーパーがボールをコントロールすること」の変更に関するQ&Aにアクセスできる)。

さらに、以下の変更が承認された。

● 第3条 - 競技者

「キャプテンオンリー」のガイドライン(添付)は、「注記および修正」の項に記載され、第3条でも言及される。もし、まだ実施していないのであれば、競技会には、フィールドにいる競技者の振る舞いを改善し、そして競技者と審判員の信頼関係をより良くし、さらには審判員の獲得とその活動の継続に好影響を与えるために「キャプテンオンリー」のガイドラインを実施することが強く求められる。

● 第8条 - プレーの開始と再開 - ドロップボール

プレーが停止されたとき、ボールがペナルティーエリア外にある場合、ボールを保持していた、または保持したであろうチームの競技者が主審にとって明らかであれば、ボールはそのチームの競技者の1人にドロップされる。もしそうでなければ、最後にボールに触れたチームの競技者にボールはドロップされる。ボールはプレーが停止されたときに、ボールがあった位置にドロップされる。

- 第9条 – ボールのインプレーおよびアウトオブプレー

チーム役員、一時的に競技のフィールドから離れている競技者、交代要員、交代して退いた競技者、または退場になった競技者が、フィールドから出ようとしているボールに触れた場合、不正に妨害しようとする意図がなければ、主審は間接フリーキックを与えるが、懲戒の罰則は与えない。

- ビデオアシスタントレフェリー(VAR)実施手順

VARシステムを採用している競技会では、競技会はVARの「レビュー」またはVARの長い「チェック」の後に、主審によるアナウンスを行うことができる。

- 審判員のための実践的ガイドライン

VARシステムを採用している競技会では、ペナルティーキックが行われるとき、副審はオフサイドラインであるペナルティーマークの延長上に位置することが推奨される。これは、VARが侵入やゴール/ノーゴールの判定を監視することができるためである。

2. 試合参加者の行動の改善を目的としたその他の試行

初期段階の良好な結果に基づき、「クーリングオフ時間」は、特にグラスルーツの競技において有効であることが認められた。そのため、当面の間、国内上位2つのリーグ、または各国の「A」代表のチームが関わらない競技会では、この試行を引き続き選択できることで合意した。

3. その他の事項

不正行為を試合参加者自身に抑制させるために、審判員がボディカメラを着用する試行が進行中である (<https://theifab.com/trials/body-cameras/>)。それに加え、こうしたカメラを、ライブ放送／中継を含むより広い範囲で使用する可能性を探る前に、品質と安全基準を策定するための試験をトップレベルの競技会で行えることがFIFAに対して承認された。

FIFAは、Football Video Support(映像を用いた判定サポートシステム)の将来、半自動オフサイドテクノロジーの進展、そして脳振盪への意識を高める「Suspect and Protect(疑わしければ、守れ)」というキャンペーンについて最新の情報を提供した。

次の2年間の任期を務めるサッカーおよび技術諮問委員会(FAP-TAP)の構成について承認した (<https://theifab.com/organisation/>)。

2025/26年版競技規則のフルバージョンは、近くIFABのウェブサイトからダウンロードできるようになる。また、競技規則の最新版は、2025年7月1日よりIFABのアプリ (<https://www.theifab.com/logapp/>)でも見ることができる。

IFABは、競技規則が継続的に進化し、競技のフィールドにおける公平・公正さと高潔さを促進、また保証するため、そして競技における変化を反映していけるよう、引き続きサッカー関係者と緊密に連携し、尽力していく。

公益財団法人 日本サッカー協会
〒112-0004 東京都文京区後楽 1丁目4-18 トヨタ東京ビル
Tel.050-2018-1990
www.jfa.jp

みなさま方のご協力に感謝する。何か疑義、質問があれば、お問い合わせいただきたい。

IFAB 事務局長

ルーカス ブラッド

[添付]

添付1:2025/26年サッカー競技規則変更の概要と詳細

添付2:2025/26年サッカー競技規則適用開始日

添付3:「キャプテンオンリー」ガイドライン

添付4:手や腕でゴールキーパーがボールをコントロールすることについて 背景とQ+A